

# Economic Indicators

発表日:2024年4月17日(水)

## 貿易統計(2024年3月)

～1-3月期の実質輸出は大きく減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		季調値		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		中国	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
23年	1月	▲ 35,280	▲ 18,360	3.5	17.5	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.6	▲ 26.2	▲ 2.5	▲ 0.9	▲ 8.3	▲ 1.2		
	2月	▲ 9,289	▲ 12,892	6.5	8.3	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.7		
	3月	▲ 7,509	▲ 12,732	4.3	7.0	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.9	▲ 5.7	1.8		
	4月	▲ 4,298	▲ 10,176	2.7	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.3	▲ 1.5	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1		
	5月	▲ 13,823	▲ 8,198	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.4	▲ 6.6	▲ 6.3	▲ 10.5		
	6月	365	▲ 5,351	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.4	▲ 14.0	4.9	▲ 13.9		
	7月	▲ 613	▲ 5,164	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.1	▲ 12.0	15.6	▲ 16.1		
	8月	▲ 9,401	▲ 5,026	▲ 0.8	▲ 17.7	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.2	▲ 9.1	▲ 9.5	5.1	▲ 13.8		
	9月	606	▲ 3,971	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.6		
	10月	▲ 6,682	▲ 3,774	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.3	0.1	1.0	▲ 2.3		
	11月	▲ 7,883	▲ 3,689	▲ 0.2	▲ 11.8	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.6	0.4	▲ 3.3		
	12月	589	▲ 4,990	9.7	▲ 6.8	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.1	▲ 5.5	▲ 13.8	▲ 0.6		
24年	1月	▲ 17,665	▲ 309	11.9	▲ 9.7	2.3	7.1	▲ 0.2	20.4	▲ 8.4	▲ 3.8	▲ 22.1	▲ 9.2		
	2月	▲ 3,778	▲ 5,662	7.8	0.5	▲ 1.5	10.9	3.5	▲ 7.1	1.3	6.7	▲ 3.2	12.6		
	3月	3,665	▲ 7,015	7.3	▲ 4.9	▲ 2.1	1.8	▲ 6.5	0.9	▲ 9.4	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 19.4		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

### ○2023年度の貿易収支は大幅に赤字縮小

財務省より発表された3月の貿易統計では、輸出金額が前年比+7.3%（事前予想：同+7.0%）、輸入金額が同▲4.9%（事前予想：同▲5.0%）、貿易収支は+3,665億円の黒字（事前予想：+3,577億円の黒字）と、ほぼ事前予想通りの結果となった。

季節調整値では、輸出金額が前月比+2.6%（2月：同▲1.8%）、輸入金額が同+3.9%（2月：同+4.3%）となり、貿易収支は▲7,015億円の赤字（2月：▲5,662億円の赤字）となった。輸入については、1月には紅海近辺での情勢悪化により欧州-アジア間の物流が大きく停滞した影響を受けて同▲9.0%と大きく落ち込んだあと、2月、3月は持ち直しが続いた。輸出についても、前月までの中華圏の春節要因が剥落したことでアジア向けが反動増となり、前月比で増加した。3月は輸出、輸入も増加する中で、輸入が上回ったことで前月から赤字幅が拡大した。

また、同時に公表された2023年度の貿易収支は▲5兆8,919億円となり、前年度の▲22兆579億円から大幅に赤字縮小となったものの、3年連続の赤字となった。貿易赤字縮小の主な要因は、輸入価格が下落したことによる輸入金額の減少（前年度比▲10.3%）であり、赤字縮小幅の8割近くを説明できる。輸出金額についても過去最高水準ではあるものの、輸出物価が上昇（円ベース：前年度比+4.1%）する中で、輸出金額は前年度比+3.7%の増加に留まっており、欧州や中国の景気減速を反映して伸び悩んだ。

先行きについても、世界経済の減速によって輸出の伸び悩む状況が続く中で、輸入については円安や原油価格上昇を反映して再び増加傾向に転じる可能性が高く、貿易収支（季節調整値）は赤字拡大のリスクが強まっている。

## ○地域別実質輸出の動向

物価変動の影響を除いた実質輸出は前月比+4.9%（2月：同▲4.4%）となった（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）。地域別にみると、米国向けが前月比▲1.2%（2月：同+1.3%）、欧州向けが同▲5.1%（2月：同+0.4%）、中国向けが同+13.9%（2月：同▲11.4%）となった。

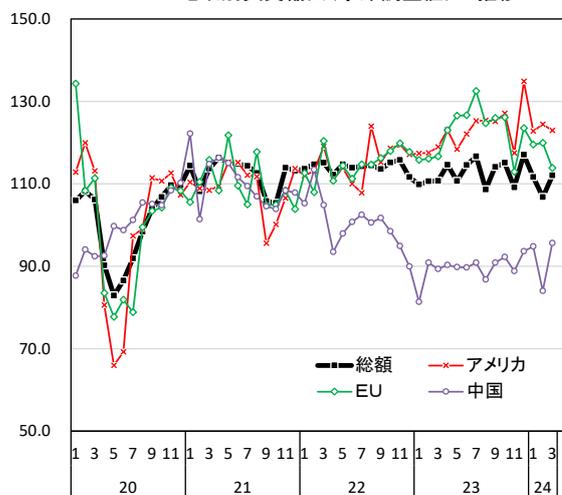
また、四半期で見ると、1-3月期の実質輸出は前期比▲3.2%（10-12月期：同+0.6%）、米国向けが同▲2.4%（10-12月期：同+1.0%）、欧州向けが同▲2.6%（10-12月期：同▲5.4%）、中国向けが同▲0.1%（10-12月期：同+2.3%）といずれの地域も減少となった。

昨年の輸出を牽引してきた輸送用機器（対世界）は、24年年明け以降の一部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて、1月（前月比▲13.8%）、2月（同▲1.6%）と減少が続いたあと、3月は同+0.5%と、減少には歯止めがかかったものの回復には至らなかった。こうした下押しを受けて、自動車輸出のウェイトが大きい米国向けも1-3月期は減少に転じた。また、欧州向けについても、2023年後半以降は景気減速を反映して弱い動きが続いてきたが、1-3月期はこうした自動車輸出の下押しも受けて2四半期連続マイナスとなり、減少傾向が鮮明になっている。

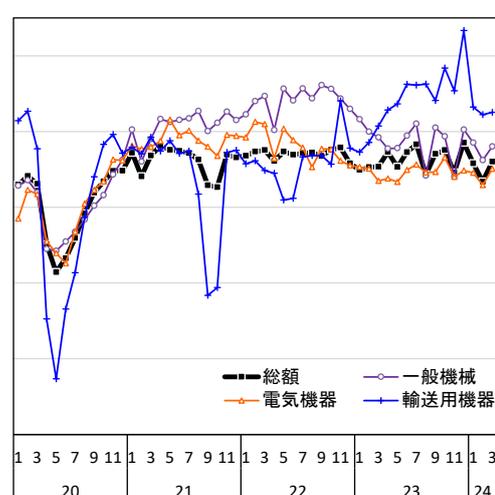
中国向けは、3月単月は大幅な増加となったものの、2月が中華圏による春節の影響で押し下げられていた可能性があり、もともと反動増は予想されていた。もっとも、そうした影響を除いても中国向けは徐々に上向きは始めている。春節の影響を均すために四半期でみると、1-3月期は前期比▲0.1%に留まっているものの、上述の自動車含む輸送用機器（前期比寄与度：▲2.1%pt）が押し下げており、これを除けば前期比+2.0%と増加に転じる。中国向けで主力の一般機械（前期比寄与度：+0.4pt）や電気機器（同：+0.6pt）は前期比増加となっており、長らく続いた低迷状態から足元では緩やかな持ち直しが窺える。

こうした結果、1-3月期の実質輸出全体は前期比減少となった。輸送用機器については、今後は徐々に生産能力の正常化に向かうとみられるものの、減産前から米国向け、欧州向けでは積み上がり需要の一巡によって自動車輸出の減速感が強まっていたことから、4-6月期は一旦持ち直すものの力強さは期待できないだろう。また、足元での世界的なハイテク需要の回復の兆しは、一般機械（半導体製造装置など）や電気機器（電子部品や通信機器など）の輸出増に繋がることを期待できるものの、まだそうした動きは確認できない（1-3月期前期比：一般機械▲0.5%、電気機器▲1.8%）。輸出の牽引役不在の中で、4-6月期も世界経済の減速感が続くことにより、財輸出は回復感の欠ける動きが続くと見込む。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。